

自衛艦隊司令官講話等シリーズ（その2）

【自衛艦隊司令部職員に対する示達（1／3）】（15. 3. 28）

I 「NAVY」について

1 海上戦力の概念

20世紀になって、政治の論理が重視される時代から、軍事の論理が重視される時代へと世界は移り変わった。そして近年は経済の論理が重視される時代へとまた移り変わっている。つまり、イデオロギーからインタレストへと価値観が変化してきているのである。こういう時代にあって平時付加価値が高く柔軟な対応ができる海上戦力（組織としては海軍・海兵隊）は極めて有用である。

そもそも近代海軍は国際経済とともに発展してきたのだから、海上自衛隊も国際経済活動を容易とする安全保障環境の構築に貢献するのは当然のことである。

2 海上戦力の意義

軍事組織の有する直接戦闘力（Fighting Power）を戦力といい、有形的要素としての兵員・装備・施設及び無形的要素としての戦意・士気・統率・軍紀・練度等からなる。そして戦力は活動場面によって陸上戦力、海上戦力及び航空戦力に分類される。

海上戦力は、その特質として公海を自由に航行できることから、自国の領域及び周辺海域を越えて行動できるので、好むと好まざるとに関わらず国際的な影響力を持っている。また、適切な後方支援能力を伴えば長期間にわたって持続した作戦が可能であることや、艦艇・航空機に種々の兵器を搭載していることから、柔軟で多様な対応・対処が可能である。つまり、海洋の特質と歴史的経緯とも相まって、平時から戦時に至る力のスペクトラム（国際親善から戦争の抑止・対処まで）の全域にわたってその影響力を効率的に発揮できる戦力なのである。特に平時から危機時にかけては、海洋の大部分たる公海上にあつて、他国の主権を侵すことなく行動して、自国の軍事的影響力を国境や領海を越えて政治目的に使用できるのである。

これらに関して、元米海軍作戦部長（1974～1978）ジェームス・L・ハロウエー海軍大将（退役）は、1986年7月遠洋航海でアナポリスを訪れた海上自衛隊の実習幹部に対する講話の中で次のように述べている。

「・・・、海軍というものは、核戦争から微妙な危機管理に及ぶ広い範囲において有効に機能することができます。特に戦争スペクトラムの低い方の状況下において、海軍力は陸軍力、空軍力に比べて国家権力の道具として極めて独特の効果を発揮することができます。諸君は階級を昇るにつれてこの海軍力の特別な性質についてはっきりとした認識を持つ必要があります。海軍力は陸軍力を動かすことによって生じるような政治的紛糾を引き起こすことなく、紛争地域の近傍に容易に展開することが可能です。紛争

の起こる可能性のある場所に展開する場合でも、陸軍力や空軍力と違って海軍力の場合は事前の国際協定に基づくことなく実施できます。また、陸軍力・空軍力の展開は他国の領土・領空に入ることによって初めて可能となるのに対し、海軍力は他国領に入ることなく、単に存在しているだけで、その採り得る行動を相手に判らせることができます。こうして海軍力は国家の指導者に対し、部隊を直接戦闘に関与させることなく影響力を行使するという選択手段を与えると共に、次に採り得る行動方針の選定において幅広い柔軟性を与えるものです。海軍力の展開については、長期間に及ぶ遠方への展開を支えるために必要な物資は自ら携行することができるという艦艇の特質から、陸軍力や空軍力が外国の土地に基地を必要とすることによって生ずるような政治的困難性は殆ど伴いません。海軍力を母港から遠く離れた世界中に展開することは、プレゼンスとして知られた軍事的利用を提供します。海軍のプレゼンスは、その時の国益に応じて目に見えるものと見えないもの、大兵力と小兵力及び好戦的なものと平和的なもの等の形態をとることができます。同盟国や友好国の港に停泊する1隻の外国軍艦は、その国へのコミットメントまたは親密なる両国関係の目に見える証拠とみることができます。一方、外国軍艦の存在がかえって敵対行為を誘発することが明らかな危機状態にあっては、その軍艦は視野の外に出て水平線の陰で次の事態に備えることができます。・・・」

3 海上戦力の役割

海上戦力の主な役割は次のとおりで、時代背景により優先度が変化するものである。

① 戦略的抑止 (Strategic Deterrence)

有効な第二撃核戦力たる戦略原子力潜水艦 (SSBN) の保持及び危機を管理できる即応体制の維持

② 制海 (Sea Control)

敵海上兵力の撃滅、我海外遠征軍の輸送・補給・支援・敵海上交通の破壊及び我海上交通の保護

③ 陸上への戦力投入 (Projection of Power Ashore)

戦術航空攻撃、敵陸上射撃及び両用強襲上陸

④ 戦争に至らない軍事作戦 (MOOTW; Military Operation Other Than War)

⑤ 海軍力のプレゼンス (Naval Presence)

予防的展開 (Preventive Deployment) または対応的展開 (Reactive Presence)

====以下次号====

(4 海上戦力の特質

5 海上戦力の構成要素)